



2026年2月12日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 F C E
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 石 川 淳 悦
(コード番号：9564 東証スタンダード市場)
問 合 せ 先 取 締 役 コーポレート本部長 加藤 寛和
(TEL 03-5908-1400)

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について（更新）

当社は、本日開催の取締役会において、今後の持続的成長と中長期的な企業価値の向上を図るべく、「資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応」について審議いたしました。

現状の資本効率および市場評価に関する分析・評価をアップデートするとともに、資本コストの低減、収益性の向上、および株主還元の拡充等に向けた具体的な取り組み方針について決議（更新）いたしましたので、お知らせいたします。

本方針に基づき、資本効率を重視した経営資源の最適配分と、ステークホルダーの皆様との対話を通じた市場評価の向上に邁進してまいります。なお、内容につきましては、本紙2ページ目以降をご参照ください。



資本コストや株価を意識した経営の 実現に向けた対応について

株式会社FCE
2026年2月12日
東証スタンダード
証券コード：9564

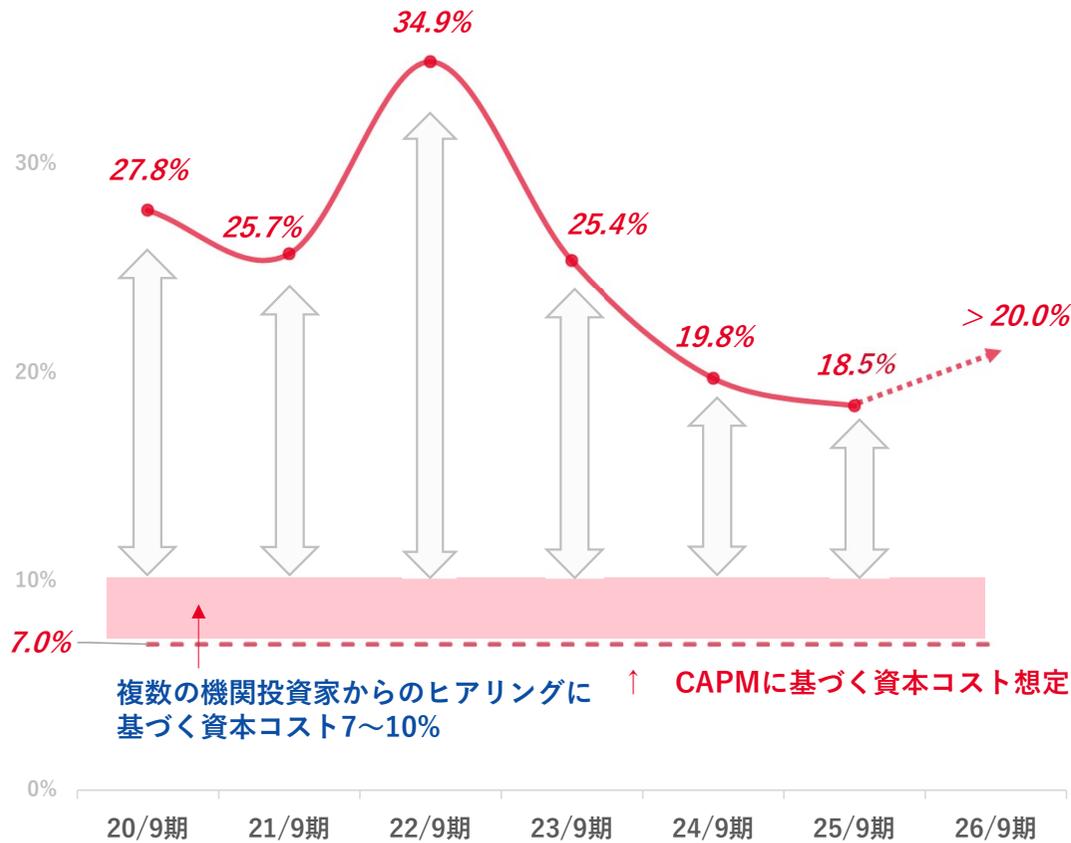




資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について：現状分析・評価①（～2025年）

ROE > 資本コストを継続維持。26/9期のROEは上昇し20%超を想定。

ROE 数値推移



ROE 要素分解

	22/9期	23/9期	24/9期	25/9期
収益性： 売上高純利益率	8.0%	7.6%	10.0%	10.9%
効率性： 総資産回転率	1.6	1.5	1.2	1.1
安全性： 財務レバレッジ	2.8	2.2	1.7	1.5

収益性

事業成長により継続的に上昇傾向

効率性

手元資金の増加や増資後の出資に伴う資産増により低下傾向

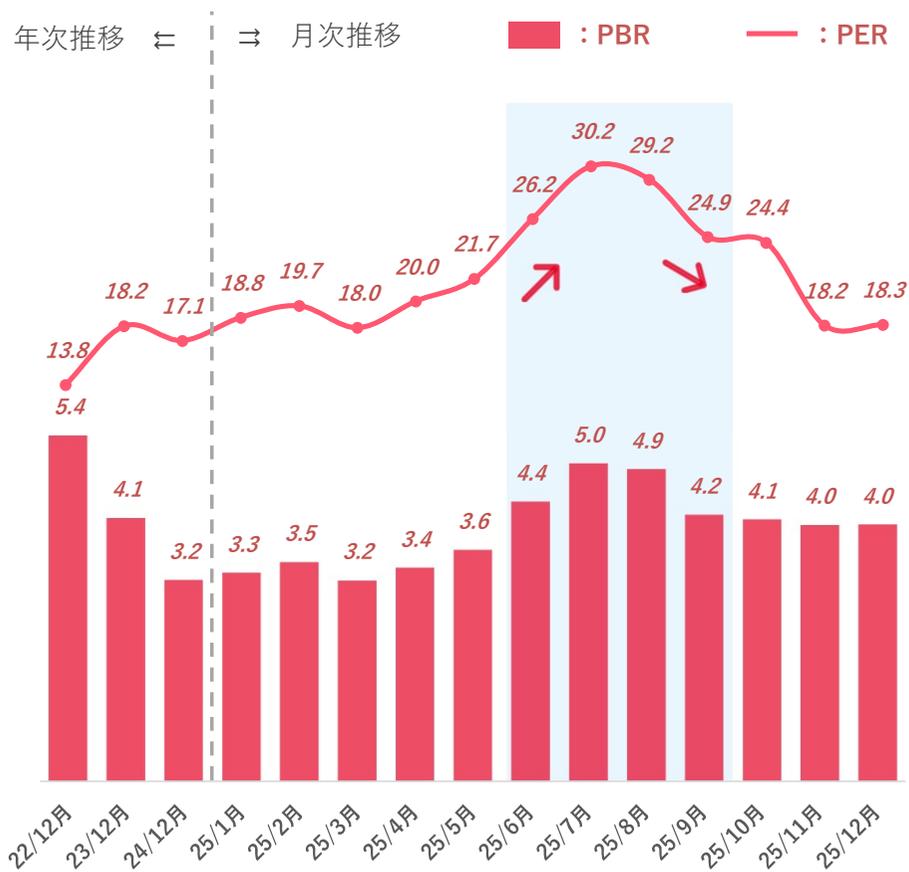
安全性

減債の進展により改善傾向

資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について：現状分析・評価②（～2025年）

PER・PBRは市場変動影響が強いため参考指標に留める方針とする。

PBR・PER 数値推移



目標指標の設定方針

～2025年

PERを目標指標として設定し、PBRおよび企業価値拡大を目指す。

振り返り

PER・PBRは市場変動の影響を強く受け、コントロールが難しい。

2026年～（詳細は次頁参照）

ROE・株主資本コスト・期待成長率から企業価値最大化を目指す。

$$PBR = ROE \times PER \approx \frac{ROE}{Ke - g}$$

Ke：株主資本コスト g：期待成長率



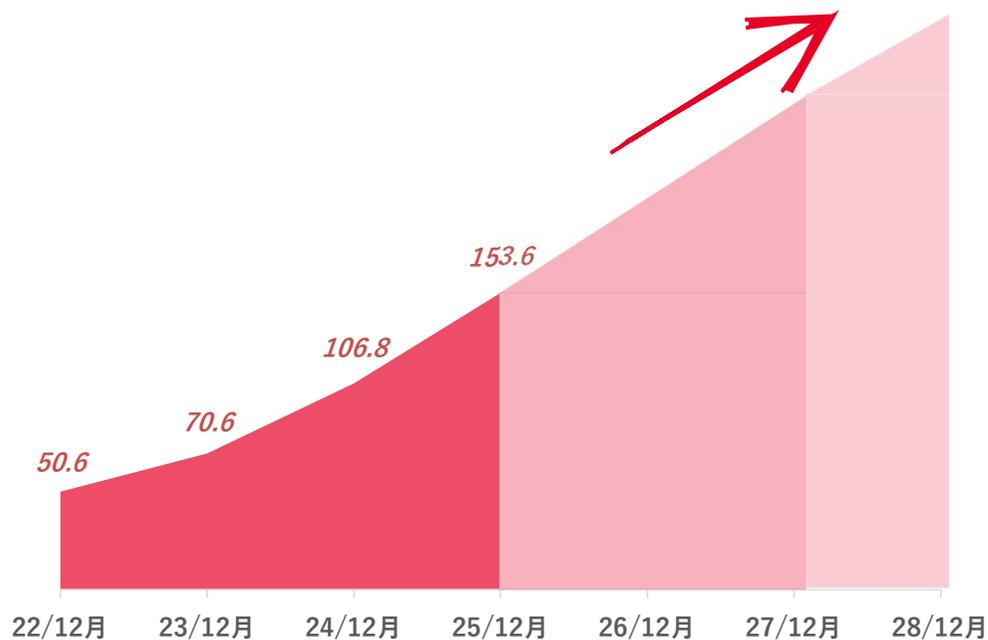
資本コストや株価を意識した経営の実現に向けた対応について：今後の方針

ROE改善・資本コスト低減・期待成長率上昇で時価総額上昇を狙う。

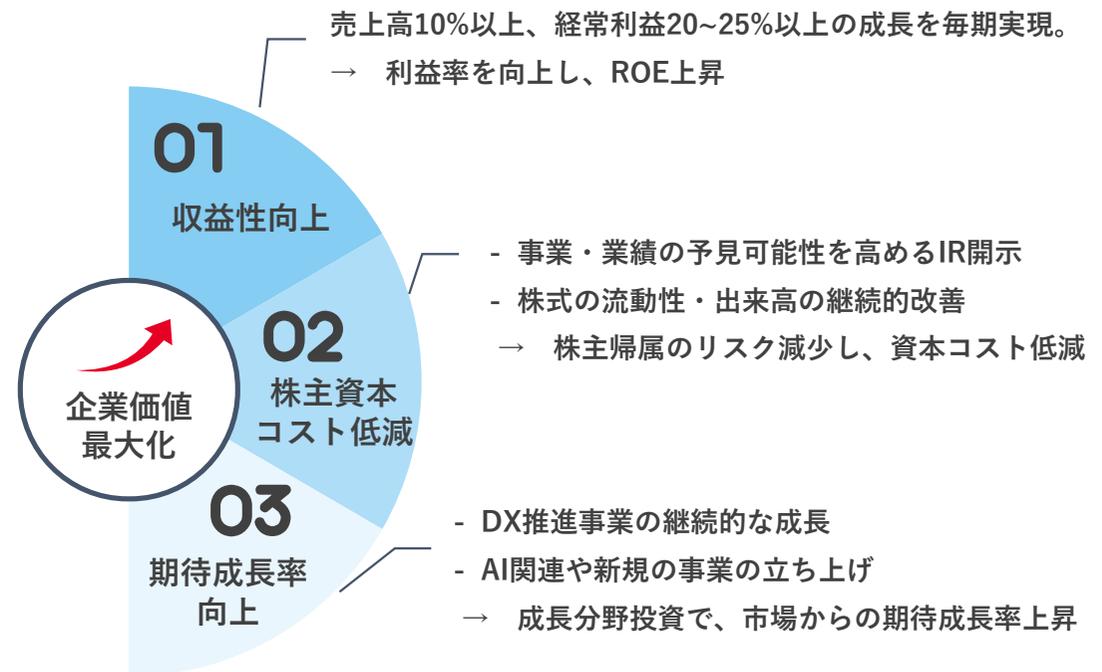
時価総額推移と今後の目標

右記3つの観点に基づき時価総額上昇を図り、
27/12月を目途にプライム市場形式要件の充足を目指す。

(単位：億円)



目標達成に向けた方針



$$PBR = ROE \times PER \approx \frac{ROE}{Ke - g}$$

Ke：株主資本コスト g：期待成長率

株主還元方針とIR活動状況

株主還元の充実やIR活動を通じた対話を進め、認知度拡大を更に推進。

株主還元

1 株主優待

過去の実績

9月を基準日として保有株式数100株(1単元)以上で1,000円分のデジタルギフト®を贈呈



今後の方針

今後も認知度拡大の手段として、機動的に検討・活用する方針

2 株主配当

配当性向25%を目安に、株主の皆様への配当を行う方針



※：2024年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で、2025年4月1日付で普通株式1株につき2株の割合で株式分割を行っております。2023年9月期の期首に株式分割が行われたと仮定し、1株当たり配当金及び1株当たり当期純利益について当該株式分割調整後の数値を記載しております。

IR活動

01

機関投資家・アナリスト向け

- ✓ 年2回の決算説明（半期決算説明会・通期決算説明会）
- ✓ 1on1ミーティング年49件（昨年+13件）

02

個人投資家向け

- ✓ 年間11回のWeb説明会/実地説明会（IRセミナー参加含む）
（マネックス証券・湘南投資勉強会・Kabu berry・神戸投資勉強会）

03

経営陣や取締役会へのフィードバック

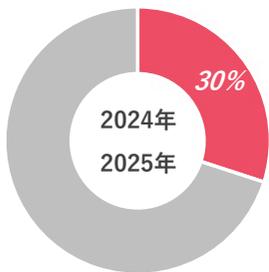
- ✓ IR対話状況を取締役会へ定期的にフィードバック
- ✓ 社長を含む役員へ、関心事項・対話内容を随時共有
- ✓ 社内のIR全体会議を各四半期5~6回開催
→ IR対話内容の共有および経営への反映を検討
- ✓ 各事業部門へは、社内会議等を通じて概況を共有

各種調査結果

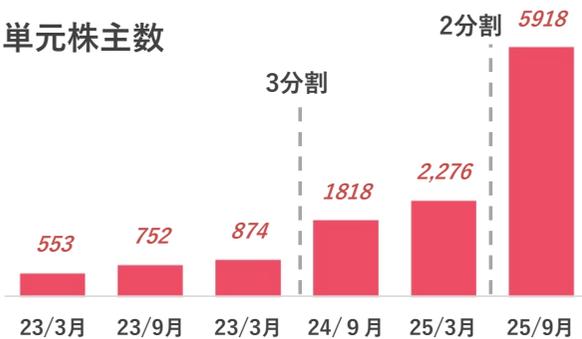
調査結果を受け、2026年もIR活動に継続的な改善を実施。

定量指標推移

■ 当社認知度



■ 単元株主数



■ PV数・月間出来高数



アンケート等分析

01



当社を知ったきっかけ TOP5

1. 投資情報誌 (四季報等)
2. 金融情報サイト (Yahoo!ファイナンス等)
3. 投資系Youtuber・インフルエンサー
4. 株主優待紹介サイト
5. 当社ホームページ (IR情報等)

02



当社株式保有理由 TOP3 Keywords

1. 成長性/業績向上
2. 株主還元
3. 事業内容/競争優位性

認知起点上位チャネルの広報強化、継続的IR発信、株主還元の改善検討で、2026年も認知度・株価上昇を推し進める。

03

投資家さまからのIRセミナーフィードバック

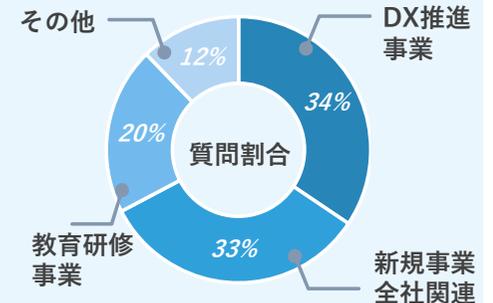
良い点

動画を用いた説明方法・詳細な数値の開示等

改善した方がよい点

情報過多・事業説明の具体性・時間配分等

質問傾向

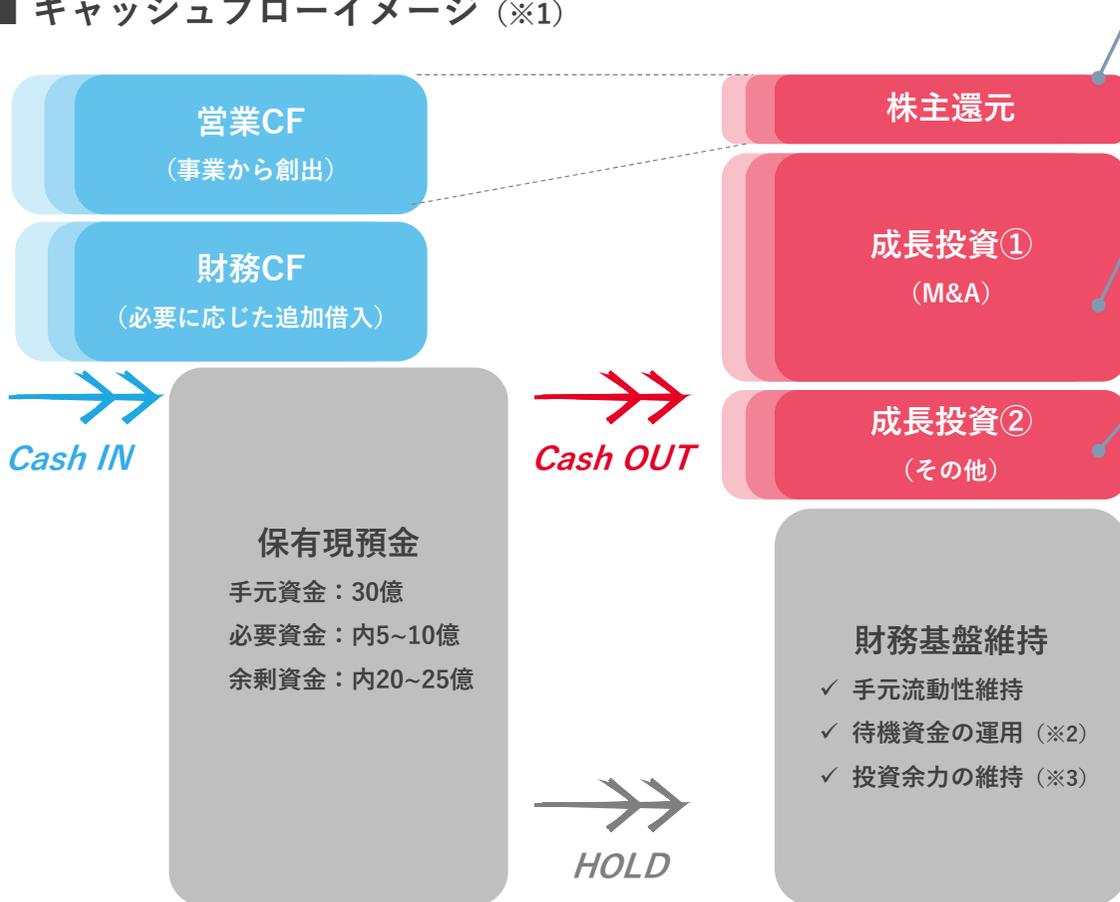


ご意見・ご質問の分析は継続。各タッチポイントでの訴求力向上に努める。

キャッシュアロケーションのイメージ

成長投資を軸としながらも、現状以上の株主還元の実施を検討

■ キャッシュフローイメージ (※1)



株主還元方針

- ✓ 配当性向25%を目安とした配当を継続
- ✓ その他 (自己株式取得等) については、対話を通じて方針・進捗を継続的にアップデート

M&A 投資方針

- ✓ MPOコンサルティングで培った知見をもとにDX・HRの分野を中心に引き続き、機会を模索中

その他

- ✓ ソフトウェア開発等、毎期0.8~1億円程度の投資 (過去3年間の平均)

※人財や広告宣伝の投資は各年のPL (営業CF) の範囲で継続的に実施

■ (参考) キャッシュフロー実績 (単位: 百万円)

	23/9期	24/9期	25/9期
営業CF	+502	+528	+1,020
投資CF	▲178	▲795	▲789
有形・無形資産の取得	▲44	▲94	▲90
財務CF	+536	+1,116	▲153
新株発行等	+560	+1,154	-
当期末現預金	2,252	3,102	3,180

※1 本図はイメージであり、図形の大小は実際のキャッシュフロー比率を反映するものではない

※2 元本割れとなるリスクのないものを中心として短期的な預金等に限定 (有価証券報告書 金融商品に対する取組方針より抜粋)

※3 財務基盤を維持することによる借入枠の確保を狙う